令和５年度研究計画

研究主任　佐藤　奈美

１．研究主題

小中高連携を意識した英語の指導法

～自分の考えや気持ちを伝える表現力の育成と評価の在り方～

２．研究の目的

向山小学校では、外国語活動・外国語教育の研究を始めて９年目を迎えた。昨年度はオンラインでの公開研究会を行い、各学年「BEST」の合言葉をもとに、どの学年でも相手意識をもった双方向的なコミュニケーションをねらった授業を展開することができた。また、令和３年度から２年間、県から小中高連携推進モデル事業の指定を受け、習志野市立第七中学校や千葉県立千葉南高校と、共通テーマ「小中高の発信力を高めるための指導法と評価の研究～自分の身近なことをリサーチして自分の思いや考えを伝える表現力とパフォーマンス評価のあり方～」の下、研究を進めてきた。昨年度は、研究テーマをもとに小中高で具体的にどのような授業が展開されているのか、相互に授業を参観した。細かいスペルミスや文法エラーなどより、自分の気持ちや考えを伝えたいという思いを尊重し、自分を表現する力や他者を理解して相手に発信する力を伸ばすことの大切さが明らかになった。

公開研究会では、今後の向山小学校の課題として評価の在り方が話題となった。さらに、小中高連携事業でも観点評価についてどの校種でも試行錯誤していることが分かった。このことから、本年度からは外国語活動・外国語教育の評価について、その手立てや方法を研究していきたいと考える。

２０１７年７月に示された学習指導要領では、グローバル化が急速に進む中で、外国語によるコミュニケーション能力が生涯にわたる様々な場面において必要とされ、その能力の向上が重要になっていることが述べられている。また、英語教育において小中高で一貫した学習到達目標が示された。１０年で英語力を育成しようという文部科学省の方針（高等学校卒業時に求められるレベルを CEFR の A２レベル即ち英検準２級程度以上の取得の割合が５０％以上）の具現化である。『小学校外国語活動・外国語　研修ガイドブック』（文部科学省、２０１７）では、「小中連携が、学校間の接続を円滑にし、小学校における学びを中学校につなげ、コミュニケーションを図る資質・能力の育成のための鍵である」としている。

習志野市では、２０２０年度から５、６年生は“We Can! ”に代わる新しい教科書“New Horizon Elementary”での学習がスタートし、２０２１年度から中学校では“Blue Sky”での学習がスタートした。小学校で英語が教科化され、それに伴い中高の英語教育もレベルアップすることが予想される。この時流を踏まえ、これまで小学校の英語教育の

研究を積み重ねてきた本校がすべきことを明らかにしたい。

３．小中高連携がスムーズに行われ、自分の考えや気持ちを伝える表現力を育成するための研究仮説

仮説（１）　様々なバリエーションでの音声インプット、アウトプット

たくさんの音声インプットはその後の音声アウトプットに繋がる。英語の歌を歌ったり、チャンツを行ったり、ゲームをしたり、フォニックスに取り組ませたりすることで、楽しみながら英語に触れる機会をたくさん作り、「音声に十分慣れ親しんだ」という状態を作り出すことで「聞いたら意味が分かる英語表現、口に出して言える英語表現」の積み重ねが生まれる。例えば、３、４年のアルファベットの単元では、通常、文字の形のグループ分けを行った後に、歌“ABC song”を使った「アルファベット読み」の練習を行う。さらに、フォニックスを使って「音読み」の練習を導入することで、児童にアルファベットには二通りの読み方があることに気づかせることができる。この気づきがスムーズな文字指導に繋がる。（本校の年間計画では、２年生から歌を使って「アルファベット読み」の指導を行う。）

また、音声指導にはALTの果たす役割が重要である。前もってALTにレッスンプランを渡したり、打ち合わせや振り返りの時間をとったり、授業の中で練習回数について確認したりするなど私達教師自身も英語のUserであり、Leanerであることを自覚して授業に臨んでいきたい。

ここで、本校で考える「聞いたら意味が分かる表現、口に出して言える英語表現」を学年ごとに表１にまとめてみる。

表１・各学年で定着させたい「聞いたら意味が分かる表現、口に出して言える英語表現」

	疑問文・平叙文（※はWriting）	疑問文の答え方	リアクション
１年	①I like　(　). ② Do you like (　)? ③ What (　) do you like? ④ How are you? ⑤ How many?	② Yes, I do. /No, I don't. ③ I like (　). ④ I'm (　). ⑤ (数字).	間投詞 （Good!） 共感 （Me ,too.）
２年	①Do you like (　)? ②What (　) do you like? ③Are you (　)? ④What's this? ⑤How many?	①Yes, I do. /No, I don't. ②I like (　). ③Yes, I am. /No, I'm not. ④It's (　). ⑤ (数字).	共感 （Me, too.） 間投詞 （Oh! Good! ）
３年	① Do you like (　)? ② How many? ③ What　(　)　do you like? ④ What's this? ⑤ Who are you?	① Yes, I do./ No, I don't. ② (数字) ③ I like (　). ④ It's (　). ⑤ I'm (　).	共感 （Me, too.） 間投詞 （Oh! Wow! Nice! Good!）

4年	① How's the weather? ② What day is it today? ③ What (　) do you like? ④ Do you have (　)? ⑤ What time is it? ⑥ How many ? ⑦ Let's play (　).	① It's (天気). ②It's (曜日). ③I like (　). ④ Yes, I do. / No, I don't. ⑤It's (時間). ⑥ (数字) ⑦ O.K! ／Sorry.	共感 （Me, too.） 間投詞 （Oh! Wow! Nice! Good!） 相槌（Yeah.）
5年	① What's your name? ② When is your birthday? ③ What's the date today? ④ What do you want to study? ⑤ What do you want to be? ⑥ Can you (動詞) well? ⑦ Where is my pencil? ⑧ What would you like? ⑨ Who is your hero? ⑩ ※ヘボン式で自分のファーストネームを書く。	① My name is (　). ② My birthday is (　). ③ It's July 1st. ④ I want to study (　). ⑤ I want to be a/an (　). ⑥ Yes, I can./ No, I can't. ⑦ It's （on/in/by） the desk. ⑧ I would like (　). ⑨ My hero is (　).	間投詞 （Oh! Wow! Nice! Good!） 疑問（Hmm?） 相槌(Yeah. Uh-huh.） 共感（Me, too. I see.) その他表現 (～, please. Really? Here you are. Good luck!)
6年	① Where are you from? ② When is your birthday? ③ What do you usually do on(曜日)? ④ What is your treasure? ⑤ Where do you want to go? ⑥ You can (buy/ see/ eat)(　). ⑦ Did you enjoy (　)? ⑧ I (went/enjoyed/ate)(　). ⑨ What did you (enjoy/eat)? ⑩ How was your summer vacation? ⑪ Where do sea turtles live? ⑫ Where is the beef from? ⑬ How much is it? ⑭ What is your best memory? ⑮ I'm good at (　) ing. ⑯※ヘボン式で自分のフルネームを書く。	① I'm from (　). ② My birthday is (　). ③ I usually (　) on (曜日). ④ My treasure is （　）. ⑤I want to go to (　). ⑦Yes, I did./ No, I didn't. ⑨ I (enjoyed/ate)(　). ⑩ It was great. ⑪ Sea turtles live in the sea. ⑫ The beef is from Australia. ⑬ It is 250 yen. ⑭ My best memory is (　).	間投詞 （Oh! Wow! Nice! Good!） Great!） 共感 （Me, too.） 疑問（Hmm?） 相槌（Yeah. Uh-huh.） その他表現 （～, please. Here you are. How about you? Thank you for listening.）

仮説（２）　楽しく必然的なアクティビティの場の設定

基礎基本表現を定着させた後は、それらの表現を用いることが必要になる場面において自分の考えや気持ちを伝え合う活動を取り入れることが、小中高連携を考える上で、重要である。例えば、３年生では７月に"What do you like?" という単元を学ぶ。単元前半では、"What do you like?"と聞いたら、相手がスポーツのカードを引き、それがサッカーの絵であったら"I like soccer."と答える活動をして知識の定着を図る。しかしそこでは、自分の考えや気持ちを伝えることが出来ない。そこで、単元後半に「お楽しみ会でやるスポーツを決めよう！」という設定を与えて活動させる。必然性があり、「やりたい」

という意欲もあるので、児童はより目的意識をもって相手とコミュニケーションを取るであろう。小学校での楽しく必然的なアクティビティの場の設定が中学校や高校の指導方法にも良い影響を与えていくと考えられる。小学校では英語をただ覚えるだけでなく、その英語を使って何ができるのかを教師が考えていくことが大事である。

４．評価について

『国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』では、学習評価について以下のように記されている。

> 学習評価は，学校における教育活動に関し，児童生徒の学習状況を評価するものである。答申にもあるとおり，児童生徒の学習状況を的確に捉え，教師が指導の改善を図るとともに，児童生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするためには，学習評価の在り方が極めて重要である。

すなわち、学習評価は「児童生徒の学習の改善につながるものにしていく」、ことと「教師の指導改善につながるものにしていく」ことが求められている。

本校では、これまでの研究で、小中高連携がスムーズに行われ、自分の考えや気持ちを伝える表現力を育成するために「様々なバリエーションでの音声インプット、アウトプット（知識・技能）」「楽しく必然的なアクティビティの場の設定（思考・判断・表現）」の具体的な手立てが明らかになってきた。今年度からは、この手立てに対して、どのように評価をしていくのかを整理し、外国語活動・外国語教育での指導と評価の一体化を図れるようにしていきたい。そのために以下の 3 点ににについて取り組んでいきたい。

① 毎時間、振り返りの時間を設ける。振り返りカードを活用して自己を振り返り、英語そのものへの気付きや他者理解などに関することを言語化させることで児童の評価や授業改善につなげる。

② 評価項目を精選し、どの単元で何を身に着けさせるのか明確にしていくことで、指導と評価の一体化を目指す。また、評価項目に対する具体的な評価方法を明らかにしていく。

③ CAN‐DO リストを作成し、学校全体で学年終了時まで、または卒業時までに何をどのくらいできるようにならなければいけないのか共通理解を図る。
※CAN‐DO リストとは、技能、能力を「～することができる」の形で記した能力記述文（can-do descriptors）を一覧表にしたものである。「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、児童に求められる学習到達目標（CAN－DO 形式）を作成する。教科書・教材、児童の学習状況、授業時数等を踏まえながら、学校及び学年ごとの学習到達目標をできるだけ分かりやすく具体的に設定し、その目標に到達するための指導方法を工夫・改善することが期待されている。各単元に設定されている評価規準とは異なり、卒業時・学年終了時などの長期的な学

習到達目標を示すものである。

５．学習指導要領における小中高の連携

表２では新学習指導要領校種別目標（要点）を示す。

表２

全体目標	
小学校	コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。
中学校	簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。
高校	情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。
知識及び技能に関する目標	
小学校	外国語の知識を、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付ける。
中学校	外国語の知識を、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。
高校	外国語の知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付ける。
思考力、判断力、表現力等に関する目標	
小学校	身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、（中略）自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
中学校	日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
高校	日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

６．指導時間

（１）授業標準時数

１・２年生　１週間に１回　約２３分の外国語活動（生活科からの年間１５時間）

３・４年生　１週間に１回　４５分の外国語活動　（年間３５時間）

５・６年生　１週間に２回　４５分の外国語　　（年間７０時間）

（２）英語の日

・毎週水曜日を英語の日とし、朝や昼の放送や校内で英語を使うように推奨し、日常化を図る。

７．授業について

（１）HRT と ALT 及び JLT の役割

・基本は HRT と ALT で行う。学年によっては、非常勤講師の JLT が入る。

HRT の主な役割	ALT 及び JLT の主な役割
①担任は **T１**として指導を行う。 ②指導案を作成する。（略案でいいので毎時間作成することが望ましい。） ③教材教具を作る。 ④楽しい雰囲気を作る。 ⑤児童の支援を行う。（自信の無い児童などの支援） ⑥児童を指名する。（基本はクラスの実態を知っている HRT が行う。） ⑦児童の評価をする。	① ALT は **T２**として指導を行う。 ②授業の前後で HRT と打ち合わせを行う。 ③ネイティブスピーカーの音声を提供する。 ④英語活動の雰囲気を作る。 ⑤HRT の支援をする。 ⑥児童の活動を支援する。 ⑦異なる文化情報を紹介する。 ⑧教材教具を作る。

（２）授業の活動例

①あいさつ
・体調や天気、曜日や時間など既習表現の復習を用いて行う。
②ウォームアップ
・歌やチャンツなどを行って、楽しい雰囲気づくりをする。
・スモールトークやゲームを行い、既習表現の復習を行う。
③本時のめあてを確認する。
・今日のゴールが何であるのか児童に掴ませる。
④デモンストレーション
・HRT と ALT や JLT で見本を見せる。
⑤プラクティス
・HRT と ALT や JLT の後に続けてリピートさせる。形態は一斉→グループ→ペアなどスモールステップを大切にして行う。
⑥アクティビティ１　アクティビティ２
・練習したものを用いて、習熟のためのゲームやトーク、発表などを行う。
・デジタルコンテンツを用いリスニングを行う、など
⑦振り返り
・振り返りカードに本時で分かったことや感想を書かせる。HRT による児童の見取りとともに評価に繋がるものとする。
⑧あいさつ
・楽しい雰囲気で終われるようにじゃんけんをしたり、歌を歌ったりする。

（３）これまでの研究を踏まえて本校で大切にしたいこと

①児童も担任も間違いを恐れずに英語にチャレンジする気持ちをもつ。最高のロールモデルは児童の前で英語と向き合っている HRT の姿である。

②スモールステップで単元を構成し、易→難へとスムーズに指導できるようにし、

児童が英語に対する苦手意識をもたないようにする。

③歌やゲームやチャンツを行い、楽しく基礎基本の徹底が図れるようにする。

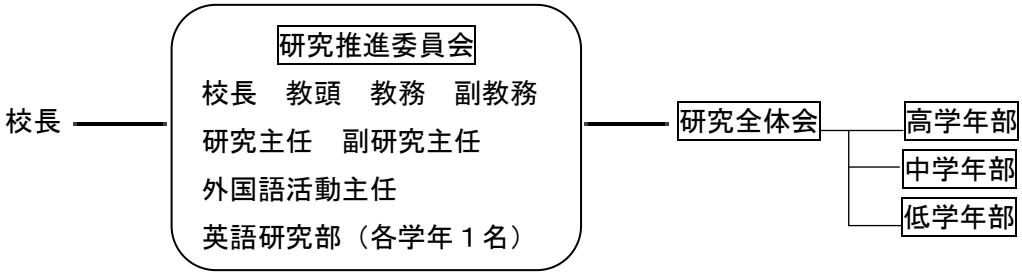
④毎時間、振り返りの時間を設ける。児童の気持ちを受け止め、児童の評価や次の授業での指導に生かす。

⑤単元の最後には自分の考えや気持ちを発表する場面を設け、児童の成功体験を積ませる。

⑥全学年、学期の終わりにはパフォーマンステストとアンケートを行い、児童の評価を行うとともに次の指導に生かしていく。

⑦今後、校内の英語の掲示物のフォントは、**UD デジタル教科書体 NK-B** とする。

８．研究組織



校長：代表　講師対応等
教頭：講師対応等渉外（依頼文書等）
教務（副教務）：研究授業・オープン研究授業計画等
研究主任：研究全般の計画・運営
外国語活動主任：ALT・JLT 配置計画
副研究主任：研究主任補助　各部会のリーダー　英語集会の計画・運営
国際交流会担当：異学年英語交流会の企画運営、国際交流会の企画運営等

９．講師

全体講師	千葉県立国分高等学校	教頭	水島真一郎 先生
１、２年生	習志野市立第六中学校	教諭	笹 原 真 哉 先生
３、４年生	千葉県立国分高等学校	教頭	水島真一郎 先生
５、６年生	習志野市立第四中学校	教頭	小野　章　先生

１０．研究計画

（１）令和７年度まで

令和５年度	令和６年度	令和７年度
研究１年目 提案授業（１学期）主任のみ 研究授業１回（２学期）	研究２年目 提案授業（１学期）主任のみ 研究授業１回（２学期）	研究３年目 提案授業（１学期）主任のみ 研究授業１回（１学期　主任以外） 公開研究会（２学期）全員

（２）校内研修

①オープン研修（学期初めと夏休み）

１学期には研究主任が中心となり、英語学習の基本的な指導技術を紹介する。

夏休みは各学年での研修担当が中心となり、手立てに関する内容等、実技について

共有する。

②デジタル教科書の活用（５、６年）

デジタル教科書を積極的に活用して知識・技能の習得に生かしていく。

（３）学期ごとの主な研究計画

	時期	実践内容等	行事・備考
１学期	４月　３日 ４月　５日 ６月　１日 ６月22日 ６月29日 ７月 ８月上旬 ８月最終週	・研究推進委員会①（今年度の研究計画確認及び組織確定） ・職員会議内にて今年度の研究計画の決定 ・オープン研修会（英語の授業の流れ、動画視聴と解説） 終了後、各学年で4月～5月１週目までの計画を立てる ・研究全体会　研究主任提案授業　全体講師指導 今年度の研究についての説明・講話等 ・研究推進委員会②（指導案の形式確定） ・研究推進委員会③実態調査（アンケート）・習熟度調査（パフォーマンステスト）の実施方法の確認 ・1学期の実態調査（アンケート）実施・習熟度調査（パフォーマンステスト）実施 ・2学期研究授業指導案検討（講師招聘） ・一学期パフォーマンステストの結果を提出	・5月2日 全校遠足 ・5月31日 4年施設見学 ・5月27日 運動会 ・６月１９日 ～21日 6年鹿野山
２学期	月　日 ９月中旬 10月31日 ～ １２月中旬 冬季休業中	・第１回研究授業 ・研究推進委員会④（紀要の形式確定予定） ・英語集会 ・２学期の実態調査（アンケート）実施・習熟度調査（パフォーマンステスト）実施 ・研究推進委員会⑤（国際交流会について） ・２学期研究紀要作成	・１０月１１日～１３日 4・5年鹿野山 ・１０月１６日、17日 6年修学旅行
３学期	冬休み明け １月３週目 ２月　日 ２月２週目 ２月３週目 ３月　日 ３月１週目 ３月２週目	・２学期の実態調査（アンケート）と習熟度調査（パフォーマンステスト）の結果を提出 ・国際交流会プラン提出 ・紀要原稿提出 ・紀要原稿修正完了 ・国際交流会・実態調査（アンケート）実施 ・研究のまとめ原本完成 ・実態調査（アンケート）の結果を提出 ・研究のまとめ印刷・製本 ・研究全体会 ・習熟度調査（パフォーマンステスト）実施 ・習熟度調査（パフォーマンステスト）の結果を提出	・1～２月 初期層研修期間 ・2月16日 こぶしコンサート